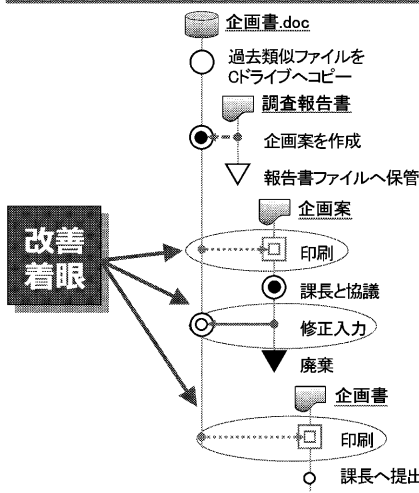


「業務の3ないを解消するチャート作成技術」

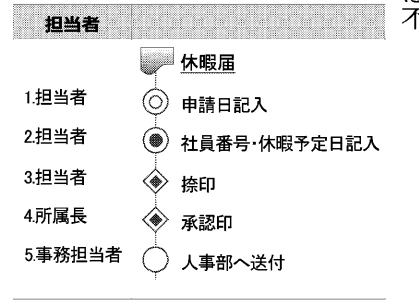
午前中はHIT法の 個々の業務の役割分担 考え方を中心に石橋か やスキルを一覧化した スキルマトリクスなど すが、午後はその特徴で ありますシステムツ ールを紹介させて頂きま す。ツールとしては①H IT手法の中核である Sチャートを使った改善 技術、②業務体系図を ベースとしたブロック チャート(Mチャート)、 ③会社全体の流れを再 構築、システム開発に つなげるBPR、④リス クマネジメント分析、 なかったらと仮定して

「企画書を 作成し、課長 と協議する。 修正した企 画書を課長 に提出する」という文 務は人ではなく機能に があったとします。理 解 付 随 する ため、目的語・ できないことはありま せんが、改善を行う情 報が不足しています。 例えば企画書はどん なソフト、参考資料は、 は18の記号で表記。そ の協議の方法は、提出 書類は紙か電子メールか などを記載。すぐでき ています。

Straight Chart (略称Sチャート)



「改善 改善 改善」



■プロセス改善技術

次に改善活動を進め 成、最終成果物が活用 される上での注意点を紹 介しておきます。①習慣 新しい活動をするにはリ スクが伴い、我々は本能 的に安全を求めます。習 慣的な仕事を变えたく ないというのは、合理性

改善提案書のフォー ーマットには改善すべ 問題点(Sチャートで 表記)、リードタイム、 年間費用、ステータス などを記載。すぐでき ています。

■実務訓練手法

業務体系図では4次 から3、2、1次業務を 作成、会社の基幹業務 件・先に考えてしまっ と、できないという結 論になりがちです。③感 情これが一番厄介です。 組織で改善活動を行う と、自分の仕事を他者か ら変えた方がいいと指摘 されると、自身の仕事を 否定されたと感じます。

C(マニュアルを見れば できる)で分類、業務技 能を3(やったことがあ る)・5(教えることが できる)で設定します。 最後にHIT法は準 備期間を含めて7カ月 行いますが、毎月管理 の基本活動と専門活動 で行っていきますが、S チャートは3カ月で作 成、6カ月間でブラッ ッシュアップしていきま す。

業務プロセスの可視化で生産性アップ! 管理・間接部門の改善必勝法」.....③

その際の合言葉とし ては、①素直にやってみ よう:これはシステム科 学のマニュアルを素直 にやってみようという 意味もあります。②過 去の責任を問わない... 誰が指示・命令をした のか言わない③対案な き反対は賛成であるこ とのことです。特に② は責任を転嫁する議論 となってしまうので、配 慮して貰いたい所です。 改善の原則はやめる こと、次に減らすこと 合格レベルが異なる)・

